

教科「理科」

科目「地学基礎」

類型（2年文型必修修）

単位数	2
担当者	矢萩 浩幸
教科書	地学基礎 改訂版（啓林館）
副教材等	サンダイヤル Navi & トレーニング地学基礎（啓林館） センサー地学基礎 改訂版（啓林館） ニューステージ 新地学図表（浜島書店）

【1】科目の目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【2】科目の内容と進め方

第1部 固体地球とその変動：活動する地球に関する探究活動を行い、その学習内容の理解を深めるとともに、地学的に探究する能力を高める。プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について理解する。火山活動と地震の発生のしくみについて理解する。

第2部 移り変わる地球：地層が形成される仕組みと地質構造について理解する。古生物の変遷と地球環境の変化について理解する。

第3部 大気と海洋：大気の構造と地球全体のエネルギー収支について理解する。大気の大循環と海水の運動およびそれらによる地球規模の熱の輸送について理解し、日本で見られる季節の気象について学ぶ。

第4部 宇宙の構成：宇宙の誕生と地球の形成について観察、実習などを通して探究し、宇宙と惑星としての地球の特徴を理解する。

第5部 自然との共生：地球環境の変化を科学的に考察する。日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりについて考察する。

【3】学習形態

講義形式が中心であるが、実習や演示実験なども織り交ぜながら行う。岩石や化石などの試料を用いながら学習するが、野外観察など実施が困難なものについてはICT機器などを活用する。

【4】学習上の留意点

- ①日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- ②疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- ③学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

【5】評価の方法と評価の観点

①評価の観点

- (1)関心・意欲・態度：自然の事物・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けているか。
- (2)思考・判断・表現：自然の事物現象の中に問題を見出し、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しているか。
- (3)観察・実験の技能：観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。
- (4)知識・理解：自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。

②評価の方法

- (1)授業への取り組み：授業に対する姿勢、学習態度、地学への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に関心・意欲・態度の項目を評価する。
- (2)ノートの記載内容：観察・実験の記録とともに、授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。
- (3)教科書・問題集の問題：各問題への取り組み、取り組んだ内容から評価する。
- (4)中間・期末考査：学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、思考・判断、知識・理解に関する配分がもっとも大きい。

【6】その他

長期休暇中には別に用意する課題を配布し、長期休暇明けに課題テストを実施する。